

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年11月11日
【四半期会計期間】	第36期第2四半期(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)
【会社名】	りらいあコミュニケーションズ株式会社
【英訳名】	Relia, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 網野 孝
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区代々木二丁目6番5号 (同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。)
【電話番号】	03(5351)7200(代表)
【事務連絡者氏名】	経理財務部長 阿部 忠義
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区代々木二丁目2番1号 小田急サザンタワー16階
【電話番号】	03(5351)7200(代表)
【事務連絡者氏名】	経理財務部長 阿部 忠義
【縦覧に供する場所】	りらいあコミュニケーションズ株式会社 中部支店 (愛知県名古屋市西区牛島町6番1号) りらいあコミュニケーションズ株式会社 関西支社 (大阪府大阪市北区梅田二丁目2番22号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第35期 第 2 四半期 連結累計期間	第36期 第 2 四半期 連結累計期間	第35期
会計期間	自 2021年 4 月 1 日 至 2021年 9 月30日	自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月30日	自 2021年 4 月 1 日 至 2022年 3 月31日
売上高 (百万円)	58,196	59,554	117,884
経常利益 (百万円)	3,077	3,399	8,180
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	2,092	2,373	5,439
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,649	4,012	6,214
純資産額 (百万円)	44,548	48,902	46,251
総資産額 (百万円)	61,903	66,717	65,435
1 株当たり四半期(当期)純利益 (円)	31.60	36.60	82.99
潜在株式調整後 1 株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	72.0	73.3	70.7
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,286	4,017	7,210
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	968	935	1,368
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	3,857	1,728	6,040
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	25,293	27,566	25,746

回次	第35期 第 2 四半期 連結会計期間	第36期 第 2 四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年 7 月 1 日 至 2021年 9 月30日	自 2022年 7 月 1 日 至 2022年 9 月30日
1 株当たり四半期純利益 (円)	15.25	19.18

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第 2 四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間における国内及び海外経済は、新型コロナウイルス感染症の影響や、国際情勢の悪化、急激な金融市場の変化など、依然として先行きが不透明な状況が続いております。当社グループが属するBPO（ビジネス・プロセス・アウトソーシング）サービス業界においては、消費者ニーズの複雑化・高度化への対応やコミュニケーションのデジタル化など、お客様企業が直面する課題を解決するためのアウトソーシング需要が底堅く推移しております。

このような経営環境の下、当社グループは「中期経営計画2023」で掲げた、「CX（顧客体験）の創造」「EX（従業員体験）の創造」「経営基盤の強化」の3つの重点テーマに沿って継続して取り組みました。当第2四半期連結累計期間における具体的な内容は以下の通りです。

・CXの創造

コンタクトセンターサービスにおいて、株式会社アドバンスト・メディアが提供するAI音声認識ソリューション「AmiVoice® Communication Suite」を当社オペレーションセンターの標準機能とすることを視野に本格導入を開始しました。バックオフィスサービスでは、当社が提供する「りらいあBPAシステム」に、LINE株式会社が提供するAI-OCR（文字認識）サービス「CLOVA OCR」を導入しました。マーケティング活動においては、当社が策定したCX創造を通じ企業競争力を高める「CXグランドデザイン」に基づく企画提案やセミナー開催などの営業活動を積極的に行うとともに、当社が提供するサービスの世界観をわかりやすく表現したブランドムービーを公開しました。

・EXの創造

人財の質を高め、多様な人財が安心していきいきと働く環境を提供することを目的に、2022年7月に新たな人事制度を導入しました。また、環境負荷の軽減と従業員がチャレンジ精神を持ちやすい環境を作ることを目的に、当社オフィスにおけるドレスコードフリーを通年での実施としました。人財採用では、首都圏の採用機能を本社事務所内に移転し、これまで以上に拠点間の連携を高め、採用力を強化すると共に、前連結会計年度に開校した「りらいあオペレーションスクール」のコンテンツ充実化によりオペレーション力の強化を図りました。

・経営基盤の強化

「信頼回復に向けた取り組みの基本方針（大綱）」に基づいた施策を継続的に取り組みました。当社オペレーションセンターにおける情報セキュリティの強化や標準化などIT基盤の高度化を完了させたほか、情報セキュリティ強化と生産性向上を目的に、新たなグループウェアを導入しました。

「中期経営計画2023」では当社が考える社会全体のあるべき姿「Sustainable & Reliable Society」の実現に向け非財務目標を設定し、経済価値及び社会価値の両面での成長を目指しております。当第2四半期連結累計期間においては、サステナビリティ全般の取り組みを推進するため、2022年4月にサステナビリティ推進担当役員並びにサステナビリティ推進委員会を設置しました。「DXを通じたCXの高度化」では、「デジタルガバナンス・コード」の基本的事項に対応したビジョンの策定や、戦略・体制の整備などを行い、デジタル変革の準備が整っている（DX-Ready）事業者として経済産業省が定める「DX認定事業者」に選定されました。「気候変動・環境への対応」では、環境方針を制定するとともに、国際的な気候関連情報開示の枠組みであるTCFD提言に賛同し、同提言に基づく情報開示を実施しました。また、当社のサステナビリティに関する取り組みをまとめた「サステナビリティレポート2022」を発行しました。

セグメント別の業績は、以下のとおりです。

コンタクトセンター事業

国内においては、基礎業務（継続的にサービスを提供する業務）では、前連結会計年度に終了した業務の影響を受けた一方で、社会イベントに伴うスポット需要を取り込みました。海外は、北米向けを中心に新規顧客との取引が増加するなど堅調に推移したほか、円安進行による為替の影響もありました。また、販売費及び一般管理費は、情報セキュリティ基盤の強化などにより前年同期比で増加しました。この結果、当事業の売上高は50,304百万円（前年同四半期比0.5%減）、セグメント利益は2,573百万円（同10.7%増）となりました。

バックオフィス事業

基礎業務が堅調に推移したことに加え、社会イベントに伴うスポット業務を受注しました。この結果、当事業の売上高は9,239百万円（同21.5%増）、セグメント利益は825百万円（同10.1%増）となりました。

その他

売上高は10百万円（同37.2%減）、セグメント利益は0百万円（同69.7%減）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高は59,554百万円（同2.3%増）、営業利益は3,399百万円（同10.5%増）、経常利益は3,399百万円（同10.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,373百万円（同13.4%増）となりました。

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、66,717百万円となり、前連結会計年度末比1,281百万円の増加となりました。主な増加は、現金及び預金1,820百万円、契約資産594百万円です。主な減少は、受取手形及び売掛金1,862百万円です。

負債は、17,814百万円となり、前連結会計年度末比1,369百万円の減少となりました。主な減少は、買掛金221百万円、未払金43百万円、未払法人税等477百万円、リース債務218百万円です。

純資産は、48,902百万円となり、前連結会計年度末比2,651百万円の増加となりました。主な増加は、親会社株主に帰属する四半期純利益2,373百万円、為替換算調整勘定1,687百万円であり、主な減少は、剰余金の配当金支払1,361百万円によるものです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の70.7%から73.3%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、27,566百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,820百万円の増加となりました（前連結会計年度末25,746百万円）。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によって獲得したキャッシュ・フローは、4,017百万円（前年同四半期は4,286百万円の獲得）となりました。主な増加は、税金等調整前四半期純利益3,428百万円、減価償却費1,347百万円、売上債権及び契約資産の増減額1,472百万円であり、主な減少は、仕入債務の増減額482百万円、未払金の増減額341百万円、法人税等の支払額1,598百万円です。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によって使用したキャッシュ・フローは、935百万円（前年同四半期は968百万円の使用）となりました。

主な減少は、有形固定資産の取得による支出655百万円、無形固定資産の取得による支出250百万円です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によって使用したキャッシュ・フローは、1,728百万円(前年同四半期は3,857百万円の使用)となりました。主な減少は、配当金の支払額1,361百万円です。

(3) 経営方針、経営戦略及び対処すべき課題等

当第2四半期連結累計期間において、有価証券報告書(2022年6月27日提出)に記載した、経営方針、経営戦略及び対処すべき課題等について重要な変更はありません。

(4) 従業員数

当社グループの従業員数が前連結会計年度末と比較して1,503名減少しております。これは主に、当第2四半期連結累計期間に、当社連結子会社であるInspiro Relia, Inc.及びInfocom Technologies, Inc.において季節繁忙のための一時的な増員が終了したこと及び一部主要業務が終了したことなどによるものです。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	253,152,000
計	253,152,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2022年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	64,838,033	64,838,033	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	64,838,033	64,838,033	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年7月1日～ 2022年9月30日	—	64,838,033	—	998	—	1,202

(5) 【大株主の状況】

2022年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
三井物産株式会社	東京都千代田区大手町1丁目2番1号	23,707	36.56
セントラル警備保障株式会社	東京都新宿区西新宿2丁目4-1 新宿NSビル	6,193	9.55
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	4,482	6.91
GOLDMAN SACHS & CO. REG (常任代理人 ゴールドマン・ サックス証券株式会社) 株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	200 WEST STREET NEW YORK, NY, USA (東京都港区六本木6丁目10番1号)	3,507	5.41
日本生命保険相互会社	東京都中央区晴海1丁目8-12	2,653	4.09
株式会社SMBC信託銀行(株式会 社三井住友銀行退職給付信託 口)	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	1,459	2.25
STATE STREET BANK AND TRUST CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OM02 505002 (常任代理人 株式会社みずほ 銀行 決済営業部)	100 KING STREET WEST, SUITE 3500, PO BOX 23 TORONTO, ONTARIO M5X 1A9 CANADA (東京都港区港南2丁目15-1)	1,019	1.57
STATE STREET LONDON CARE OF STATE STREET BANK AND TRUST, BOSTON SSBTC A/C UK LONDON BRANCH CLIENTS - UNITED KINGDOM (常任代理人 香港上海銀行東 京支店カストディ業務部)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋3丁目11-1)	1,013	1.56
野村信託銀行株式会社(投信 口)	東京都千代田区大手町2丁目2-2	1,005	1.55
計	—	46,481	71.69

(注) 1. 株式会社S M B C信託銀行(株式会社三井住友銀行退職給付信託口)の所有する株式1,440千株については、委託者である株式会社三井住友銀行が、議決権の指図権を留保しております。

2. 2022年5月10日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、三井住友信託銀行株式会社、三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社および日興アセットマネジメント株式会社が2022年4月29日現在で以下の株式を保有している旨が記載されているものの、三井住友信託銀行株式会社を除き当社として2022年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況に含めておりません。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1-4-1	362,000	0.56
三井住友トラスト・アセットマ ネジメント株式会社	東京都港区芝公園1-1-1	1,995,000	3.08
日興アセットマネジメント株式 会社	東京都港区赤坂9-7-1	915,700	1.41

- ３．2022年９月27日付で公衆の縦覧に供されている変更報告書において、カバウター・マネージメント・エルエルシーが2022年９月21日現在で以下の株式を保有している旨が記載されているものの、当社として2022年９月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況に含めておりません。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
カバウター・マネージメント・ エルエルシー	アメリカ合衆国イリノイ州60611、シカゴ、 ノース・ミシガン・アベニュー401、2510号 室	3,375,654	5.21

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年９月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 —	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 64,828,300	648,283	—
単元未満株式	普通株式 9,733	—	—
発行済株式総数	64,838,033	—	—
総株主の議決権	—	648,283	—

(注) １．「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,100株(議決権の数21個)が含まれております。

２．当社は、自己株式を保有しておりません。

【自己株式等】

該当事項はありません。

２ 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2022年7月1日から2022年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,746	27,566
受取手形及び売掛金	20,913	19,051
契約資産	1,418	2,012
貯蔵品	28	48
その他	2,199	2,862
貸倒引当金	178	253
流動資産合計	50,129	51,288
固定資産		
有形固定資産	6,034	5,957
無形固定資産		
のれん	1,953	2,074
その他	1,162	1,212
無形固定資産合計	3,116	3,287
投資その他の資産	6,155	6,183
固定資産合計	15,306	15,428
資産合計	65,435	66,717
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,970	2,748
未払金	7,579	7,536
リース債務	592	541
未払法人税等	1,236	759
賞与引当金	1,096	1,059
役員賞与引当金	37	19
損害賠償損失引当金	103	103
その他	2,513	2,045
流動負債合計	16,129	14,813
固定負債		
リース債務	484	316
退職給付に係る負債	637	751
資産除去債務	1,875	1,865
その他	57	68
固定負債合計	3,054	3,001
負債合計	19,183	17,814

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	998	998
資本剰余金	1,112	1,112
利益剰余金	42,169	43,181
株主資本合計	44,280	45,292
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2	5
繰延ヘッジ損益	35	95
為替換算調整勘定	2,131	3,818
退職給付に係る調整累計額	131	122
その他の包括利益累計額合計	1,967	3,606
非支配株主持分	3	3
純資産合計	46,251	48,902
負債純資産合計	65,435	66,717

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	58,196	59,554
売上原価	49,592	49,780
売上総利益	8,603	9,773
販売費及び一般管理費	5,527	6,374
営業利益	3,075	3,399
営業外収益		
受取利息	4	3
受取配当金	2	5
受取手数料	7	6
持分法による投資利益	22	38
投資事業組合運用益	17	-
その他	9	11
営業外収益合計	64	65
営業外費用		
支払利息	35	27
為替差損	21	-
固定資産除却損	-	32
その他	5	5
営業外費用合計	62	65
経常利益	3,077	3,399
特別利益		
助成金収入	27	56
特別利益合計	27	56
特別損失		
投資有価証券評価損	-	26
特別損失合計	-	26
税金等調整前四半期純利益	3,105	3,428
法人税等	1,012	1,055
四半期純利益	2,092	2,373
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,092	2,373

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	2,092	2,373
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	2
繰延ヘッジ損益	8	60
為替換算調整勘定	555	1,676
退職給付に係る調整額	6	9
持分法適用会社に対する持分相当額	2	10
その他の包括利益合計	556	1,638
四半期包括利益	2,649	4,012
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,648	4,012
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,105	3,428
減価償却費	1,071	1,347
のれん償却額	194	221
投資有価証券評価損益(は益)	-	26
引当金の増減額(は減少)	137	12
受取利息及び受取配当金	7	8
支払利息	35	27
持分法による投資損益(は益)	22	38
売上債権及び契約資産の増減額(は増加)	4,083	1,472
棚卸資産の増減額(は増加)	45	20
仕入債務の増減額(は減少)	515	482
未払金の増減額(は減少)	1,082	341
未払消費税等の増減額(は減少)	1,142	328
その他	32	325
小計	5,594	5,622
利息及び配当金の受取額	23	20
利息の支払額	35	27
法人税等の支払額	1,296	1,598
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,286	4,017
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	732	655
無形固定資産の取得による支出	425	250
その他	189	29
投資活動によるキャッシュ・フロー	968	935
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	313	367
自己株式の取得による支出	2,007	-
配当金の支払額	1,536	1,361
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,857	1,728
現金及び現金同等物に係る換算差額	174	466
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	365	1,820
現金及び現金同等物の期首残高	25,658	25,746
現金及び現金同等物の四半期末残高	25,293	27,566

【注記事項】

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当社及び連結子会社は、税金費用につきまして、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税引前四半期純利益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減した上で法定実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(のれんの評価における仮定)

当社海外子会社Inspiro Relia, Inc.に対するのれんの評価における仮定については、前連結会計年度の有価証券報告書の「重要な会計上の見積り」に記載した仮定から重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

(偶発債務)

当社の連結子会社であるInspiro Relia, Inc.（以下Inspiro）は、Inspiroが受託する業務において、オペレーターの不正処理に起因する損害賠償を求める書状を2022年7月20日にお客様企業から受領しました。

Inspiroは事実関係について精査中であり、現時点でその影響額を合理的に見積もることが困難であるため、四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
従業員給与手当	1,764百万円	1,942百万円
賞与引当金繰入額	411	471
退職給付費用	75	80

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
現金及び預金勘定	25,293百万円	27,566百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	25,293	27,566

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月23日 定時株主総会	普通株式	1,536	23	2021年3月31日	2021年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年11月5日 取締役会	普通株式	1,370	21	2021年9月30日	2021年12月1日	利益剰余金

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2021年5月14日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,571,200株の取得を行っております。この結果、当第2四半期連結累計期間において、自己株式が2,007百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式は2,007百万円となり、株主資本は42,796百万円(前連結会計年度末44,079百万円)となりました。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月24日 定時株主総会	普通株式	1,361	21	2022年3月31日	2022年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年11月4日 取締役会	普通株式	1,426	22	2022年9月30日	2022年12月1日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コンタクトセ ンター事業	バックオフィ ス事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	50,575	7,604	58,179	16	58,196	-	58,196
セグメント間の 内部売上高又は振替高	6	4	11	-	11	11	-
計	50,581	7,609	58,190	16	58,207	11	58,196
セグメント利益	2,324	749	3,074	0	3,075	0	3,075

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その内容はフィールドオペレーション事業です。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去額です。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コンタクトセ ンター事業	バックオフィ ス事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	50,304	9,239	59,543	10	59,554	-	59,554
セグメント間の 内部売上高又は振替高	5	5	10	-	10	10	-
計	50,309	9,244	59,554	10	59,564	10	59,554
セグメント利益	2,573	825	3,399	0	3,399	-	3,399

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その内容はフィールドオペレーション事業です。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去額です。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

(顧客との契約から生じる収益を分解した情報)

主要な地域別に分解した収益の情報は以下のとおりです。

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:百万円)

		報告セグメント			その他 (注) 2	合計
		コンタクトセン ター事業	バックオフィス 事業	計		
主要な地域 (注) 1	日本	42,354	7,604	49,959	16	49,975
	米国	4,447	-	4,447	-	4,447
	フィリピン	3,421	-	3,421	-	3,421
	その他	351	0	351	-	351
	合計	50,575	7,604	58,179	16	58,196

(注) 1. 売上高は顧客の所在地を基準に、国又は地域に分類しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その内容はフィールドオペレーション事業です。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円)

		報告セグメント			その他 (注) 2	合計
		コンタクトセン ター事業	バックオフィス 事業	計		
主要な地域 (注) 1	日本	40,243	9,239	49,482	10	49,492
	米国	5,119	-	5,119	-	5,119
	フィリピン	3,962	-	3,962	-	3,962
	その他	979	-	979	-	979
	合計	50,304	9,239	59,543	10	59,554

(注) 1. 売上高は顧客の所在地を基準に、国又は地域に分類しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、その内容はフィールドオペレーション事業です。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり四半期純利益	31円60銭	36円60銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	2,092	2,373
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	2,092	2,373
普通株式の期中平均株式数(千株)	66,220	64,838

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

2 【その他】

2022年11月4日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (1) 中間配当による配当金の総額..... 1,426百万円
- (2) 1株当たりの金額..... 22円00銭
- (3) 支払請求の効力発生日及び支払開始日..... 2022年12月1日

(注) 2022年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年11月4日

りらいあコミュニケーションズ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 伊藤 裕之

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 川村 拓哉

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているりらいあコミュニケーションズ株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年7月1日から2022年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、りらいあコミュニケーションズ株式会社及び連結子会社の2022年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認め

られないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) １．上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
２．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。